

駅まち空間をもっと居心地のよい空間に

—令和7年度 小諸駅前広場の環境改善に向けた社会実験—

図 都市計画課



こもろ・まちなねプロジェクト連絡会議では、小諸駅前地区の暮らしと観光交流の拠点としての魅力を高めるために、「駅まち空間」改善に向けたさまざまな試みをしてきました。しなの鉄道(株)が駅舎の建て替え等を検討しているため、駅前広場の本整備は数年後を予定しています。このため、今年度は9月中旬頃からこれまでの試みから必要性が確認された機能の暫定整備と「歩きやすさ」「滞在しやすさ」「情報の見つけやすさ」など、必要と考えられる機能を実際に試してみることで、今後の整備に向けたヒントを得ていきます。

【凡例】 **整** 当面設置予定 **試** 試し効果検証

1 「歩きやすく」「過ごしやすい」空間へ

整 「安全」と「景観」を両立する工夫

ガードレールによる歩車道の分離に加え、歩行者空間からの見た目に配慮するよう工夫
ゆとりある歩行者空間の創出
歩行者の十分な通行スペースを確保した上で、タイプの異なるベンチを設置
「まちの顔」をつくる景観づくり
ついつい写真を撮りたくなるフォトスポットを設置

試 多様な主体の共創による賑わいづくり

周辺店舗や市民も関わりみんなで作る賑わいイベントの開催

2 駅から「まちの拠点」へスムーズに！

試 路面誘導サインの設置

行き先がわかりやすいように路面に案内を設置
わかりやすい案内板に更新
地図情報の見直しで観光客もスムーズにまちの情報をキャッチできるように改善
駅とまちをつなぐ景観演出
植栽や花の寄せ植えなどで一体感を演出

この社会実験は、利用者の声をもとに駅前広場の将来像を描くための大切な一歩です。ぜひ立ち寄っていただき、ご意見をお寄せください。

R7社会実験の
取り組みのイメージ



ガードレールの化粧直し
タイプの異なるベンチの設置



植栽や花の寄せ植えとオブジェによる
フォトスポットの設置



路面誘導サイン・わかりやすい案内板へのリニューアル

小諸市特別職報酬等審議会から市長への答申が行われました

R7/1/31、小諸市議会議長から議員報酬の引上げについての要請を受け、市長は小諸市特別職報酬等審議会へ諮問をしました。これを受けて3回の審議会が開催され、7/31の審議会において、柳澤よし子会長から市長へ答申書が手渡されました。

【答申内容】

1 議員報酬額の支給基準の改定について

議員報酬について、次のとおり改定することが適当と判断しました。
議長報酬、副議長報酬、議員報酬とも現行報酬の約6%を引き上げる。
※報酬の改定時期については、市長の判断とする。

2 答申にあたっての付帯意見

- (1)市民の議会への理解を深めるために、議会活動及び議員活動の見える化に取り組むこと
- (2)議員のなり手不足解消について、議員報酬の増額に頼らない方策も検討をすること
- (3)市民の声を聴くだけでなく、課題解決の具体的な対応を考え、議会全体として、まちづくりに参画すること
- (4)市民に届く有効な情報発信を行い、市民の議会への関心を高めること

図 総務課（審議会に関すること）／議会事務局（議員報酬に関すること）



	現行	改正後	増額
議長	42万7千円	45万3千円	2万6千円
副議長	35万4千円	37万6千円	2万2千円
議員	33万3千円	35万3千円	2万円